

市民ワークショップの結果概要（現庁舎地利活用について考える市民ワークショップ）

開催概要

【目的】

現庁舎地利活用について考える市民ワークショップは、浦和駅周辺のまちづくりや市役所移転後の現庁舎地の利活用について、市民の皆様から様々なご意見をいただき、今後の検討の参考とすることを目的に開催。

【開催日程】

2日間ワークショップをA、B、C日程の計3回開催した。

会場：ときわ会館 大ホール

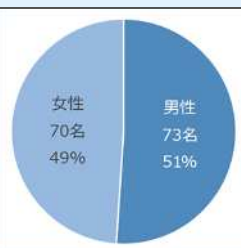
	A日程	B日程	C日程	内容
1日目	10/22	11/ 5	11/26	現庁舎地及び周辺エリアのまちの魅力について
2日目	11/ 5	11/26	12/18	現庁舎地利活用策について

【当日参加者（実人数）：143名】

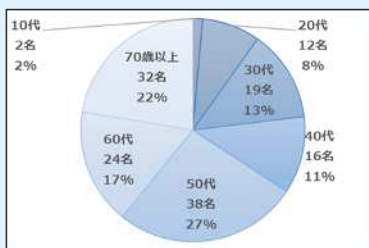
募集に当たっては、公募枠と無作為抽出枠を設け、広く参加者を募った。

168名の方からの申込みがあり、当日は10代～70歳以上までの幅広い年代の143名（25名欠席）の市民の方が参加。

<男女別内訳>



<年代別内訳>



<居住区別内訳>



【検討経緯・市の方針等を説明】

各日程のグループディスカッションに先立ち、ワークショップの目的や進め方のほか、事務局から「（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン」、「本庁舎整備等の検討経緯」、「現庁舎地の利活用」について説明。

説明の様子



【グループディスカッション】

各日程7～8班に分かれ、グループディスカッションを行い、各班で考えた内容を発表。

● 1日目

1日目は、屋上から浦和の街並みを見学した上でディスカッションを開始。

庁舎の屋上から見た「現庁舎地&周辺エリアについて感じたことや思ったこと」についてイメージを共有し、「現庁舎地の強み・弱みになること」について意見を出し合った。上記のディスカッション内容を踏まえ、強みや弱みも織り交ぜた「現庁舎地のポテンシャル（隠れた魅力）」について、意見を出し合い、各班で考えた内容を発表。

● 2日目

2日目の前半では、第1回のディスカッションで考えた「現庁舎地のポテンシャル（隠れた魅力）」や検討結果を振り返りながら、「現庁舎地にあつたらよいもの・サービス」について意見を出し合った。上記のディスカッション内容を踏まえ、「10～15年後の具体的な現庁舎地の利活用案」として各班で考えた内容を発表。

屋上見学の様子



ディスカッションの様子



発表の様子



主な意見まとめ（1日目）

現庁舎地の魅力やポテンシャルの主なものについて、班ごとに発表。発表された意見を分野ごとにまとめた内容は以下のとおり。（一部抜粋）

文化・教育のまちとしての魅力

【文化】

- ・中山道の浦和宿
- ・明治以降の歴史の雰囲気が残っている
- ・サッカー発祥の地（浦和レッズがある）
- ・文化芸術への関心、取組
- ・文化の拠点（体験など）としての機能
- ・歴史的にシンボルをたてやすい
- ・文教都市としてのブランドがある

【教育】

- ・学校・保育所、公共施設が多い
- ・教育水準（子の教育）の高さ
- ・大学・研究機関の誘致（医療、データサイエンス）

まちの立地としての魅力

- ・地盤が強く災害に強い
- ・場所が広い、平地、見晴らしがよい
- ・ランドマークになれる場所（近くに目立つ建物がない）
- ・3駅の間にあり多方面から利用圏内
- ・行政機関が集中している
- ・車の利用者にとって便利な場所
- ・公園設置位置のバランスが良い

市民が住むまちとしての魅力

- ・落ち着いた雰囲気、平穏、閑静なまち
- ・治安が良く、安心・安全な場所（警察・消防が近い）
- ・世代みんなで住む環境が良い（学校、行政、住まい、公園が一体になっている）
- ・子育てがしやすい・子供の遊び場

主な意見まとめ（2日目）

現庁舎地の利活用策の主なものについて、班ごとに発表。発表された意見を分野ごとにまとめた内容は以下のとおり。（一部抜粋）

多世代交流の場所

- ・多世代・多様な交流に使える多目的空間
- ・気軽に使える憩いの場
- ・公園、広場、遊び場、スポーツ/イベントスペース
- ・市民利用から国際交流にも使える多目的空間
- ・個人でも複数でも楽しめるスペース
- ・緑（樹木、芝生）、水辺の空間
- ・四季や自然と触れあえる広場
- ・子育てにも使える場所

教育（学び）・研究機能

- ・様々な学び・体験ができる施設
- ・学びなおしができる施設（リカレント教育）
- ・研究機関（IT、医療、スポーツ、先端分野）
- ・インキュベーション機能、コワーキングスペース
- ・学校（幼稚園～大学）
- ・幅広い世代が学べる場所、体験学習（ものづくり、音楽、芸術）
- ・知識教養を深める場所

防災拠点・機能

- ・防災設備を備えた複合施設
- ・災害時も平常時も使える公園・広場、体育館
- ・避難所、備蓄施設
- ・地下シェルター（地下駐車場等の整備）
- ・防災に関する知識を学び、体験できる場所

スポーツ・健康増進施設

- ・各種スポーツ施設（多世代で利用可能）
- ・スポーツ教室、レクリエーション施設、運動場、ウォーキングスペース
- ・健康増進施設（多世代健康スポット）

シンボルとなる機能

- ・浦和のシンボルとなる場所
- ・国内外に埼玉を発信するシンボル
- ・シンボルがある多機能公園
- ・景色の良い展望台

文化・芸術拠点

- ・市民参加の文化機能
- ・芸術家が育つ市民発表の場（情報発信）
- ・図書館、美術館、音楽ホール、劇場など

豊かな生活を送るための施設

- ・カフェ、レストラン、マルシェ（地元産品などの販売/提供）
- ・保育園、老人ホーム、スーパー銭湯

➡現庁舎地の利活用策として、「多世代の交流の場所」、「防災拠点・機能」、「学び・体験の場」、など様々な内容の発表があった。その中でも機能を複合化し、多様な世代が利用できる場所や立地を生かした防災機能の充実に関するご意見が多くあった。いただいたご意見は、今後の計画策定に向けた検討の参考とする。（ワークショップ結果の詳細は、市ホームページに掲載予定）

また、開催後実施した参加者アンケートでは、94%の方が、今回のワークショップには「満足」、「どちらかといえば満足」と回答し、97%の方が、「また参加したい」、「どちらかといえばまた参加したい」と回答。

今後もワークショップを始め、様々な手法により、市民の皆様のご意見を伺いながら、現庁舎地利活用の検討を進めていく。